

議 事 録

| | |
|-------|---|
| 会 議 名 | 令和 5 年度第 1 回八潮市水道運営委員会 |
| 開催日時 | 令和 5 年 6 月 29 日（木） 午後 1 時 30 分～2 時 20 分 |
| 出席委員 | 村山委員長、坪田委員、中嶋委員、恩田委員、飯山委員、山中委員、村松委員、玉森委員 8 名 |
| 次 第 | 1. 開 会 2. あいさつ 3. 新任委員・職員紹介 4. 議 題 (1) 令和 5 年度八潮市上水道事業の予算について 5. 閉 会 |
| 議 事 | <p>1. 令和 5 年度八潮市上水道事業の予算について、事務局からの説明後、質疑応答を行った。</p> <p>○主な質疑応答 （ 委員 ） 建設改良費の予算額は 15 億 6,490 万円となり、前年度比で 7 億 5,389 万円の増額となっている。前年度と比べ倍近くの増額となっているが、この理由について伺いたい。また、基幹管路の耐震化工事等、長期にわたる工事は計画的に行われているものと思うが、年度によって建設改良費に増減が生じる要因について伺いたい。</p> <p>（ 事務局 ） 今年度は例年と比べて特に工事の多い年度となっている。理由としては、基幹管路等耐震化第 5 期工事に係る令和 5 年度分の工事費が令和 4 年度分と比較し、1 億 7 千万円程度増額となったこと、基幹管路以外の配水管布設替工事費を約 1 億 8 千万円増額したこと、南部配水場自家発電設備の老朽化に伴う更新費用として、新たに約 3 億 4 千万円の予算を計上したことなどが挙げられる。</p> <p>また、基幹管路等耐震化第 5 期工事は令和 4・5 年度の継続事業であるが、令和 4 年度工事は準備的な工事であったため、今年度の本体工事費と比較すると金額に大きな差が生じている。このように、建設改良費については、工事の内容により各年度の金額に差が生じることがある。</p> <p>（ 委員 ） 八潮市は他市と比べて軟弱地盤であるが、そういった点は工事費用に関係があるのか。</p> <p>（ 事務局 ） 今回の工事については推進工法で行っている。本市の場合、深度が深いところになると砂質土となっているため、地盤を補強する費用が発生する。また、本市は全体的に地盤が緩いため、対策工事や耐震管を布設していく必要がある。</p> |

(委員)

水道水を使っていない世帯はあるのか。

(事務局)

市内では1世帯が井戸水を使用している。

(委員)

台風2号における市内の被害状況について教えてほしい。また、雨量が増加し続けていけば被害はどうなっていたのか。

(事務局)

市内の被害状況については、住宅の浸水被害の内訳として、床上浸水が11件、床下浸水が47件あった。また土嚢要請が21件あり、370袋を提供した。避難所は10か所開設し、全体で340名の利用があった。道路状況については、通行止めが8か所、冠水は多数確認された。本市は近隣市町と比較して平坦な土地であるため、土砂崩れ等の被害は確認されなかった。更に長時間の降雨が続いた場合には、被害の増加や河川氾濫の発生といった危険性も考えられる。水道水の供給に関しては、地中の配水管により行われるため、そのような状況下においても供給を行うことができるものと考えている。しかしながら、停電が発生した場合については、自家発電施設での対応を余儀なくされるため、長時間の停電が続くとポンプによる配水に支障が生じ、水道水の供給ができなくなる恐れがある。

(事務局)

水道部の災害対策としては、洪水等により電気室等の重要な施設に被害が及ばないよう、各施設の高さを1m程度かさ上げしている。また、非常用発電機の施設に関しては、入口箇所止水板を設置できるようにしている。

(委員)

近隣市町の耐震化率はどれくらいなのか。

(事務局)

管路の総延長の耐震化率に関しては、草加市が41.3%、三郷市が同じく41.3%、吉川市が41.9%、越谷松伏企業団が49.7%の数値を示している。また、基幹管路の耐震化率については、草加市が48.0%、三郷市が34.7%、吉川市が48.2%、越谷松伏企業団が34.0%である。いずれも令和3年度の数値である。

(委員)

八潮市は、近隣市町と比較して耐震化率が低い値となっているが、その理由は何なのか。

(事務局)

基幹管路の耐震化率が低い要因としては、基幹管路以外の管路の布設替工事を行っていることが挙げられる。近隣市町と違い、本市は区画整理を頻繁に行っているため、それに伴って新設工事をすることも多い。よって、基幹管路の耐震化率が近隣市町と比較して低い数値を示す傾向になっていると考えられる。全体的な管路の延長に関しては、区画整理の新設工事と共に布設替工事を行うことで、徐々に耐震化率を上げていくことを計画している。また基幹管路に関しては、それ以外の新設工事及び口径の小さい布設替工事と併せて耐震化を図っていきたいと考えている。